

近畿農政局男女共同参画優良事例表彰 マキノ旬菜庵が経営参画優秀賞



地元食材を使った弁当



マキノ旬菜庵が、平成 27 年度近畿農政局男女共同参画優良事例表彰の経営参画優秀賞を受賞されました。

同グループは、琵琶湖の旬の食材を活用した加工品販売を行っておられ、とりわけ地域に伝わる郷土料理や家庭料理をメニューに取り入れた弁当が人気です。メンバーは、60代と70代の女性4名に加え、人材育成を目的に30代と40代の女性2名を雇用し、経営の場において、それぞれの世代が活躍していることが高く評価され、滋賀県で唯一の経営参画優秀賞に選ばれました。(農業政策課)

子ども夏休み絵画教室 個性彩る、油絵作品に挑戦

8月に今津公民館で、「子ども夏休み絵画教室」が行われ、小学生から中学生まで約15人が参加し、油絵などの作品づくりに挑戦しました。

講師は、滋賀県出身の芸術家 大矢良治さん。大矢さんは、国際芸術文化賞など多数の賞を受賞されており、昨年、今津町にアトリエや陶芸窯を構えた縁から、講師を引き受けてくださいました。

「途中で終わらず、1つの作品を完成させて、絵を描くことを好きになってほしい」との方針で、子どもたちは自由にそれぞれの捉え方で、ユリの花を描きました。大矢さんは、一人ずつアドバイスをしながら各作品を手直し。最後に子どもたちがサインを入れ、作品が完成しました。(秘書広報課)

youtube



お詫びと訂正
広報9月号の記事に下記のとおり誤りがありました。お詫びのうえ訂正いたします。
▼12ページ「ペーロン大会」記事の「大会結果」チャンピオンシップの部の第3位チーム名(誤) 松陽台 ⇒ (正) VICTORY 南浜

「江若鉄道の思い出・高島展」開催 懐かしい思い出語り合う

藤樹の里文芸会館で、「江若鉄道の思い出・高島展」が9月5日(土)から13日(日)まで行われました。

今年3月から4月にかけて大津歴史博物館で開催された企画展「江若鉄道の思い出」が高島市でも開催され、戦前の江若鉄道の姿を残す貴重な写真から廃線に至るまでの様子、沿線のスケッチやジオラマ、思い出の言葉などが展示されました。懐かしい江若鉄道の姿に、訪れた人々は展示品一つ一つを眺めながら、「高校時代に毎日乗った鉄道です。学生時代が蘇ります。」と思い出を語ってくださいました。(秘書広報課)



7月30日



色砂を使ったクラフトで交流

藤樹先生の縁！大洲市の子どもと交流

中江藤樹先生勉学の地である愛媛県大洲市の小学6年生21人が高島市を訪れ、体験活動よえもん道場に参加している市内の小中学生38人と交流しました。

論語の素読や、自分の名前を色砂で描いた色紙の作成活動を通じて藤樹先生の教えを学びながら、親交を深めました。(高島市青少年育成市民会議)

8月2日~7日



雪で書いた文字を囲んで

ニセコ町で雄大な自然に触れる

カタカナの町名が縁で旧マキノ町のときから交流を続けている北海道ニセコ町に、市内の小学5・6年生と中学生サブリーダーの22人が訪問しました。

ニセコ町の小学生とレクリエーションを楽しんだり、ラフティングやアイスクリーム作りなどの体験活動を行ったり、ニセコ町にホームステイをさせていただいたりしました。

北海道の雄大な自然やニセコ町の皆さんの優しい心にふれながら、子どもたちは元気に活動に取り組み、思い出に残る訪問となりました。(高島市青少年育成市民会議)

魚いっぱいかんだで!

子どもが成長するきっかけに

チャレンジ! 夏休み体験活動

夏休み期間中、子どもたちがいろいろな活動にチャレンジしました。



8月18日~20日



魚を串に刺して焼きます

吹田市の子どもとキャンプファイヤー

今津町にある吹田市立少年自然の家で、第35回吹田市・高島市少年キャンプ大会が行われ、両市の子どもたち119人が参加しました。

キャンプファイヤーやナイトハイクなどもりだくさんの内容で、野外炊事では、自分で捕まえた魚を串に刺して焼いて食べるなど、夏休みの楽しい思い出となりました。(青少年課)

8月22日~25日



力をあわせて網を引っ張る!

大漁! 能登で地引網体験

石川県の能登青少年交流の家で、よえもん道場「能登キャンプ」を開催しました。39人の児童が地引網や砂像作り、キャンプファイヤーなど普段の生活では体験できない活動にチャレンジしました。

特に地引網では、みんなで力を合わせて網を引き、鯛やヒラメ、アジなどたくさんの魚を収穫。それらの魚をさばいて、おいしくいただきました。(高島市青少年育成市民会議)

はじめまして！
地域おこし協力隊です！

はら しゅうすけ
原 周右さん
(平成 27 年 8 月 10 日 任命)
●出身 大阪府堺市
●年齢 25 歳



「高島ってやっぱりすごい」

初めまして。8月に委嘱を受け移住してきたばかりで、ついこの間まで大阪市内のサラリーマンでした。一日の大半をオフィス街で過ごしていた私は高島では水鳥に驚き、道であいさつを交わすご近所さんに驚き、鮎すしの旨さに感動し…。

私が移住した旧高島町勝野の竜地区は町割りからもう歴史が生きている。そして、伝統や、しきたりを守ってきた人たちがいます。ようし勉強しますよ！

高島B & G海洋センターの6選手
Jr オリンピック水泳に出場



8月21日(金)から26日(水)に東京で行われた第38回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会に参加標準記録を突破した高島B & G海洋センター所属の次の6選手が出場されました。このうち中村海渡くんが100m自由形で決勝に進出され、8位入賞されました。(市民スポーツ課)

※敬称略

- 中村 海渡 (比叡山高3年(高島中出身))
50、100、200m自由形、400mメドレーリレー
- 大塚 陽平 (比叡山高3年(高島中出身))
100m平泳ぎ、400mメドレーリレー
- 中村 智也 (比叡山高2年(安曇川中出身))
400mメドレーリレー
- 清野 涼二 (比叡山高1年(安曇川中出身))
400mメドレーリレー
- 兼田 真奈 (高島小6年)
50、100m自由形、50mバタフライ
- 鳥巢 紅音 (志賀中3年)
200、400m個人メドレー

比叡山高校 古橋さん(今津中出身)
県代表し 甲子園出場！

7月28日(火)に皇子山球場で行われた全国高等学校野球選手権滋賀大会の決勝戦で古橋輝樹さん(3年・今津中出身)が所属する比叡山高校が見事優勝。8月6日(木)から甲子園で行われた第97回全国高等学校野球選手権大会に滋賀県代表として出場されました。(市民スポーツ課)



平田さん、今津銃剣道スポーツ少年団
全国銃剣道大会で優勝！

7月25日(土)に宮城県で第27回全国高校生銃剣道大会が行われ、平田 秀幸さん(尽誠学園高2年(今津中出身))が見事優勝されました。また8月5日(水)に日本武道館で全日本少年少女武道(銃剣道)錬成大会が行われ、今津銃剣道スポーツ少年団が次のとおり優秀な成績を収められました。(市民スポーツ課)



※敬称略

●銃剣道

- 【(団体) 小学5、6年生の部】
1位 滋賀県選抜
中山 鈴嵐(今津東小6年)
松本 奈衣瑠(今津北小5年)
- 【(団体) 中学生の部】
2位 滋賀県選抜
北出 滉弥(今津中1年)
3位 今津銃剣道スポーツ少年団
松本 亜衣奈(今津中1年)
吉見 風香(鳥越中1年)

- 【(個人) 小学2年生の部】
1位 中山 結愛(今津東小2年)
- 【(個人) 小学5、6年生女子の部】
2位 中山 鈴嵐(今津東小6年)
3位 松本 奈衣瑠(今津北小5年)
- 【(個人) 小学1年生の部】
4位 榊原 嵩人(今津北小1年)
- 【(個人) 中学1年生の部】
4位 北出 滉弥(今津中1年)
- 【(個人) 中学生女子の部】
4位 吉見 風香(鳥越中1年)

●短剣道

- 【小学1、2年生の部】
3位 中山 結愛(今津東小2年)
- 【小学3、4年生の部】
3位 坂井 夢空(今津北小4年)
4位 光田 耕太朗(今津北小4年)
4位 井上 大志(今津東小4年)
4位 榊原 一世(今津北小4年)
- 【小学5、6年生の部】
4位 松本 奈衣瑠(今津北小5年)

高島チームが近畿大会に出場
がんばるママ、バレーで活躍



7月26日(日)に竜王町総合運動公園で第27回全国家庭婦人バレーボールいそじ大会滋賀県予選大会が行われ、高島チームが見事、準優勝されました。

この結果、9月4日(金)に和歌山県で行われた第16回近畿ママさんバレーボールいそじ・ことぶき大会に出場、健闘されました。(市民スポーツ課)

高校総体で高島の高校生が活躍！
インターハイで2位、3位！

7月28日(火)から8月20日(木)まで近畿各地で行われた平成27年度全国高等学校総合体育大会に次の選手が優秀な成績を収められました。(市民スポーツ課)

※敬称略

- 【競泳 男子100m自由形】
第2位 中村 海渡
(比叡山高3年(高島中出身)) 51秒64
- 【ボート 男子シングルスカル】
第3位 橋本 昌樹
(高島高3年) 4分23秒59



橋本昌樹くん



中村海渡くん

協力隊のさいじり記

【さいじり】歳時 催事 細事 etc…
移ろいや催し、日々感じる細々したことを地域おこし協力隊の感性で徒然伝えていくコーナーです。(初回は 太田隊員より)

「季節感」
「トンボの季節になってきたね」ある人が言った。こういう春夏秋冬ではない季節の表し方っていいな。トンボが増えるとか稲刈りが始まるとか、風が冷たくなる、山が色づく、その他いっぱい集まって「秋」が形成される。「秋になった」の一言で済ませるにはもったいない自然の変化。
日本は四季折々美しい国というけれど、高島みたいにハッキリ感じられるところも珍しい。高島の地理的条件もあるだろうけど、周りにあるいろんなものが教えてくれるんだろうな。「照り返しの厳しい夏が来ました」とか「ビル風が堪える冬になりました」って風情がないもの。心が動かされた時に出る言葉にこそ風情は生まれるんですよ、きっと。だから平安時代の作品は物悲しくも美しい響きがあるのかな、とか思ってみたりして。この時代に五感を駆使して季節を感じることができるのは最高の贅沢なのかもしれません。あとは心を磨くだけ。
さて、そろそろ雲海の季節だ。